６．「宇宙を通して」学び続ける、育み続ける仕組みづくりについて

YAC活動における活動ポイント制度
（YACチャレンジ（仮称））
（たたき台の案）

2023年度　YAC活動委員会

柱立て（ブレスト）

- 「宇宙を通して」学び続ける、育み続けるためのしくみが必要
- 好奇心、冒険心、匠の心をベースに置く
- 育てる子供像は、次ページの　**宇宙の子、科学の子、地球の子**　とする。

宇宙　…宇宙への夢、希望、冒険心、未知、チャレンジ、体験など
科学　…科学する心を養う
　　科学的論理的思考、発見、継続探究、工夫、創造など
地球　…つながる力、広がる力；つながり（マクロ～ミクロ）、文化、
　　多様性、地域、世界など

現状：全国の分団でリーダーの得意分野、専門性、指導者層の幅、団員の層がばらばらである。リーダーに対する質を保証する研修制度もない（宇宙教育指導者セミナーはあるが、宇宙教育の概要にとどまっている）

大方針：

第1段階　活動項目を　大まかに宇宙、科学、地球に分けて活動内容の記録から始め、達成感を持たせることから始めたい。

第2段階　その後、活動項目ごとに宇宙教育での位置づけを行うとともに活動した内容に応じて級付け（ランク付け；C, B, A, Sなど）を行い、さらなる進化を目指す。なお、この進化にあたっては、級付けに応じてその内容の定義、指導者の教本、個々の内容に応じた指導者の認定などが必要になって来る。逆に、これを通してYACとしては全国どこでも宇宙教育の質の保証ができる。

第1段階

３．育てたい子ども像

・「宇宙の子」を育てる

宇宙への夢や希望・冒険心を育てる

体験や学びを通して「宇宙」を感じる

・「科学の子」を育てる

科学する心を育てる

不思議を発見し、継続的に探求し、工夫し創造する

・「地球の子」を育てる

つながり、ひろがる力を育てる

宇宙・自然・人・社会・科学技術のつながりを知り、

相互を思いやり、いのちを大切にする

第1段階

活動項目を　大まかに宇宙、科学、地球に分けて活動内容の記録から始め、達成感を持たせることから始めたい

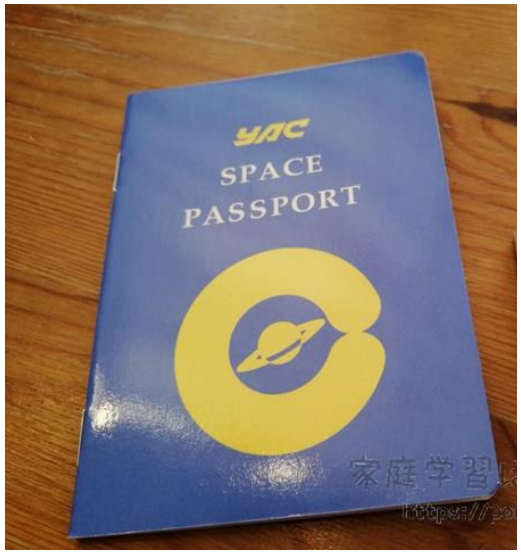
- 宇宙　Space
  - 宇宙そのものに関わる活動
  - チャレンジ課題・活動
- 科学　Science
  - 科学実験、工作、創作活動など
  - プログラミング、電子工作等含む
- 地球　Earth
  - 多文化共生…さまざまな文化的活動、各国文化、語学、食事など
  - 自然体験学習、地域活動への参画、問題発見解決
- 振り分けは各分団にて判断

第1段階

YACパスポート

宇宙…宇宙にかかわる活動のこと
科学…科学実験、工作、創作活動など
地球…自然体験学習、地域活動への参画、交流など

	1	2	3	4	5	6	…
宇宙 Space	11/5						
科学 Science	12/10						
地球 Earth	10/15						



YACチャレンジ（YACパスポート内に記載）

日付Date: 11/5	活動内容Title: ロケットの製作	スタンプ Stamp:
宇宙Space: 科学Science: 地球Earth:	キーワードKeyword:	
リーダーLeader:		
記録Log: ・・・		

第2段階

論点

・これからの「宇宙時代」を生きる子どもたちに求めたい項目を選択する
・各項目の活動内容を難度、レベルに応じてC,B,A,Sレベルに分類する
・あまり細かくなりすぎないように気をつける
・活動の多様性を担保（提案）するためのチェックリストとしても活用できる
・だれがどのように評価する？
・指導する人の教本、指導する人を育てる仕組みも必要
・これを通してYACとしては全国どこでも宇宙教育の質の保証ができる
・B,A,Sクラスとその内容については今後、分団長会議等で議論していく。初めにCレベルについて例示し、B,C,Sレベルについてはこちらから押し付けないならないように配慮する

項目	C（体験した）	B（自分なりに理解工夫）	A（概念を理解し、説明・実施できる）	S リーダー・指導者級（専門的に理解し、指導できる）
水ロケット	・標準的な機体を手順通り製作し、飛行させた。 ・製作時に、道具等を正しく安全に使用できる。	・飛行の様子を観察し、自分なりに試行錯誤、工夫して機体を作り直し、改良・改善することができる。	・機体の製作にあたって、飛行の仕組みや各部の役割を理解し、科学的に考察しながら製作、改善を行うことができる。 ・飛行に際して、科学的に観察分析し、改良することができる。	A 迄に加えて、 ・構造や仕組みなどについて、科学的に理解し、説明・製作することができる。 ・製作、飛行に際し、参加者の実情を把握し、安全に配慮して、製作会、講座、大会等を運営できる。
星空観察会	・星空観察会に参加し、星座や星を観察する。	・星座早見盤やアプリケーションを使用して、自ら星座や星を探して見ることができる。 ・主要な星座や星、惑星などについて、早見番頭に頼らず確認し、指し示すことができる。	・星座や恒星、惑星、月等について、さまざまな逸話や、最新情報を取り込み、まとめて、他者に話すことができる。	

項目とその難度に応じたレベル分けの例